

第1号議案 令和5年度事業報告及び収支決算、監査報告

I. 事業報告

令和5年度は、2020年初頭から猛威をふるってきた新型コロナウイルス感染が、昨年5月に感染法上の分類が5類に引き下げられ、社会生活や経済活動はコロナ以前の状態によく戻った。

一昨年2月に始まったロシアのウクライナ侵攻当初は、エネルギー、食料などの供給減少や価格急騰によって世界的なインフレに見舞われたが、昨年後半からは比較的落ち着いた動きに変わってきたものの、中東情勢の緊迫化、中国経済の失速など、世界経済への影響が懸念されている。

最近の日本経済について、名目GDPは比較的高い伸びとなっているが、実質では低迷が続いている。個人消費は、旅行客や訪日外国人が大幅に増加し、外食や宿泊などが回復しているものの、全体として物価上昇もあって実質ではマイナスが続いている。消費者物価指数をみると、総合では3%台の上昇から2%台に、その中で食料も8%台の上昇から5%前後へとやや落ち着いてきたが、依然として高い水準が続き、食料が物価全体を押し上げる状況になっている。また、名目賃金は昨年、今年と近年にない引上げ率となったが、実質賃金がプラスに転じることが今後の個人消費の動向を左右するとみられる。

このような中で冷凍食品について、業務用は、外食、旅行に関連する業態などで急速な回復がみられる一方、家庭用は、価格改定もあって金額としては前年をやや上回っているが、前述のような経済状況を反映して数量的には前年を下回って推移している。そのほか、外食店の人気メニューなどを冷凍した食品の自動販売機・無人店舗、デパートなどでの高価格冷凍調理品販売などが増加し、家庭用市場の更なる変化と拡大が続いている。

一方、輸入原材料、エネルギー、物流などのコストは、円安の再進行などもあり、依然として上昇傾向が続いており、これまで冷凍食品企業は価格改定を実施してきたが、コスト上昇分を十分転嫁できていない状況である。

また、CO₂、フロン、プラスチックなどの排出・使用の削減、2024年問題に代表される物流の合理化、SDGsなどの社会的要請のほか、外国人労働力確保に関する制度改正など、これらの課題に対して適切な対応を行っていく必要がある。

このような状況の中で、当協会では5年度も各種事業を積極的に展開し、全体として概ね計画通りの活動を行った。主な事業内容は、以下の通りである。

＜令和5年の生産・消費動向＞

5年(1～12月)の冷凍食品生産量は、数量154.6万トン(前年比3.3%減)、金額(工場出荷額)が7,799億円(2.1%増)であった。前年に比べ数量は減少、金額は増加した。また、家庭用は数量、金額ともに減少した。業務用は数量が減少したが、家庭用を3年ぶりに上回り、金額は増加した。金額は引き続き、家庭用が業務用を上回った。

国内生産量に冷凍野菜輸入量、調理冷凍食品輸入量を加えた「国内消費量」は288.0万トン(3.4%減)、国民一人当たりでは、23.2kg(0.7kg減)となった。

冷凍食品の生産数量・金額の推移

【数量】

	業務用		家庭用		計	
	数量 (トン)	前年比 (%)	数量 (トン)	前年比 (%)	数量 (トン)	前年比 (%)
令和元年	896,107	99.6	692,350	100.7	1,588,457	100.1
2年	779,948	87.0	771,265	111.4	1,551,213	97.7
3年	788,838	101.1	798,253	103.5	1,587,091	102.3
4年	793,812	100.6	804,996	100.8	1,598,818	100.7
5年	788,455	99.3	757,113	94.1	1,545,568	96.7

【金額】

	業務用		家庭用		計	
	金額 (百万円)	前年比 (%)	金額 (百万円)	前年比 (%)	金額 (百万円)	前年比 (%)
令和元年	381,514	95.9	316,437	99.1	697,951	97.3
2年	327,882	85.9	372,612	117.8	700,494	100.4
3年	342,762	104.5	391,504	105.1	734,266	104.9
4年	357,181	104.4	406,145	103.7	763,926	103.7
5年	380,355	106.3	399,550	98.4	779,905	102.1

冷凍食品の国内消費量(令和5年)

国内消費量 (トン)	国内生産量			1人当たり 消費量 (kg)
	国内生産量 (トン)	冷凍野菜 輸入量 (トン)	調理冷凍食品 輸入量 (トン)	
2,880,347 (前年比96.6%)	1,545,568 (96.7%)	1,119,589 (97.4%)	215,230 (92.1%)	23.2 (0.7kg減)

1. 広報事業

業界統一キャッチコピー「べんりとおいしいのその先へ 冷凍食品」をベースに、広報事業全体で統一的に進めた。主な訴求対象として、シニアや単身世帯を主体としたほか、若年層に対する取り組みを強化した。業務用としては、学校給食関係者等に対する取り組みを行った。

(1)PR 活動

ア. キャッチコピー・ロゴによる展開と冷凍食品アンバサダーの起用

統一キャッチコピー「べんりとおいしいのその先へ 冷凍食品」をベースとしてPR活動を展開。イベントや制作物など、様々な場面でPRするとともに、会員各社への周知及び製品カタログ等での活用を促進し、業界全体の活性化を図った。

また、平成 29 年度から「冷凍食品アンバサダー」に起用している洋食料理家の三國清三氏には、PR イベントへの参加など協会事業に協力いただいた。

イ. 冷凍食品 PR イベント

(ア)「冷凍食品の日」PR イベント

昨年度より参加人数を増やし、募集を 200 名(実際の参加者 156 名)とし、試食会はbuffet形式とした。

タイトル:「10 月 18 日は『冷凍食品の日』

～べんりとおいしいのその先へ 冷凍食品～」

日 時:10 月 18 日(水) 12:00～14:10

会 場:ロイヤルパークホテル(東京都中央区)

開会挨拶 / 大櫛会長

【第一部】 トークセッション / ゲスト 横澤夏子さん(タレント)

三國清三氏(洋食料理家冷凍食品アンバサダー)

西川剛史(冷凍食品コンサルタント)

ゲストのトーク、横澤夏子さんが冷凍食品を活用したレシピを実演。



大櫛会長の挨拶



トークショー



ミニクッキングコーナー



報道撮影

【第二部】 試食会

ホテルシェフが考案した冷凍食品活用メニューの試食(立食)。

プレゼント抽選会

閉会挨拶 / 木村専務理事



試食会の様子



提供されたアレンジメニュー

(イ)農林水産省「消費者の部屋」展示

①農林水産省(本省)

農林水産省「消費者の部屋」で、「べんりとおいしいのその先へ 冷凍食品」をテーマに 18 回目となる冷凍食品の展示を開催。5 日間の来場者数は 1,609 名(前年 337 名)で、4 年ぶりに試食と会場のラジオ中継を実施した。

期 間:10 月 2 日(月)~10 月 6 日(金)

場 所:農林水産省「消費者の部屋」(東京都千代田区)

内 容:-パネル展示

協会「普及パネル」、「工場見学パネル」、「冷凍食品の歴史パネル」
「業務用需要先マップ」ほか

・スタンドパネル展示

「冷凍食品の豆知識の木」、「〇×クイズ」等

・ダミーパッケージ展示 80 品目

・普及パンフレット類の配布

・会員社製品パンフレット類の配布

・当協会制作の消費者向け DVD「フレッシュ、便利、おいしさ、多彩！冷凍食品のある暮らし」「冷凍食品 100 年記念映像」の上映



中央展示ブース



ラジオ中継の様子



試食コーナー

②地方農政局

①の「消費者の部屋」の展示は、東海農政局(管内 3 ヶ所で 7 月 26 日~9 月 29 日に展示)、北陸農政局(1 月 4 日~1 月 31 日)で開催された。

(ウ)学校給食関係者向け研修会

教育家庭新聞社との共催で、本年度で 9 回目となる、栄養教諭、学校栄養職員、教育委員会学校給食担当者などを対象とした研修会を、会場とオンラインによる参加方式で開催。専門家による講演、栄養教諭による実践発表、会員社による取組と商品紹介(会場では試

食会)、意見交換会を実施。

研修会の模様を、教育家庭新聞9月18日号に掲載。(後述)。

タイトル:「栄養教諭の資質向上と冷凍食品の活用でより豊かな献立を」

日時:8月18日(木) 10:00~14:00

場所:静岡県(あざれあ男女共同参画センター)

内容:・(公社)全国学校栄養士協議会会長 長島美保子氏による基調講演
「栄養教諭に求められる職務と役割~冷凍食品の活用が課題解決の一助に~」
・藤枝市中部学校給食センター栄養教諭 池谷綾子氏による実践発表
「学校給食における冷凍食品の活用について」
・会員8社による取組、商品の紹介
・意見交換会

受講者:栄養教諭、学校栄養職員、教育委員会学校給食担当者など

会場参加者:25名 オンライン参加者:78名



(エ)月刊「栄養と料理」タイアップセミナー

女子栄養大学出版部との共催によるセミナーを開催。管理栄養士や調理師などの同誌読者を対象にしたセミナーを開催。栄養の専門家とフードライターを講師として講演を行った。その他、会員6社による商品説明と試食を実施。会場とオンラインによる参加方式で実施。

タイトル:「一人分の自炊こそ冷凍食品！少量使いも保存も栄養バランスも」

日時:2月10日(土) 13:30~15:30

場所:コンGRESSクエア日本橋

内容:・広報部長による講演:「知ろう！活かそう！冷凍食品」
・女子栄養大学栄養生理学研究室教授 上西一弘氏
講演:「いつまでも、自炊！「寝たきりにならない食事」で大切なこと
~骨粗鬆症を予防する食事~」
・フードライター 白央篤司氏
講演:「あなたはどのタイプ？自炊に便利！冷凍食品」
・会員6社による取組、商品の紹介
・質疑応答

受講者:「栄養と料理」読者(管理栄養士、栄養士など食に携わる方等)

会場参加者:77名 オンライン参加者:303名



(オ)各種セミナー

以下、いずれも広報部長が講演。

①グッドライフフェア(GOOD LIFE フェア)2023

朝日新聞社主催の消費者向けイベントである GOOD LIFE フェアにて「知って納得！冷凍食品の魅力～べんりとおいしいのその先へ～」のタイトルでセミナーを実施。

日 時:9月3日(日) 13:00～14:00

場 所:東京ビックサイト

参加人数:約 60 名

②FOOD STYLE JAPAN 2023

FOOD STYLE Japan(東京・九州・大阪)にて「正しい冷凍食品の知識と安全のために必要なこと」のタイトルでセミナーを実施。ブースでは、PR 動画を上映し、協会普及資料を配布した。

i 東京会場

日 時:9月14日(木) 10:30～11:20

場 所:東京ビックサイト (参加人数:約 60 名)

ii 九州会場

日 時:11月15日(水) 10:30～11:25

場 所:マリンメッセ福岡 (参加人数:約 60 名)

iii 大阪会場

日 時:1月25日(木) 11:50～12:40

場 所:インテックス大阪 (参加人数:約 60 名)

③日本包装産業展(JAPAN PACK 2023)

「包装なしでは語れない冷凍食品」をタイトルにセミナーを実施。

日 時:10月5日(木) 13:30～14:20

場 所:東京ビックサイト(参加人数:約 120 名)

(カ)東京都「交流フェスタ」

東京都消費者月間である 10 月に開催されている東京都主催の「交流フェスタ」は、4 年ぶりに新宿駅西口広場で開催された。10 月 22 日(日)～ 23 日(月)、当協会がブースを出展し、消費者に関連する情報等を発信。セミナーステージでは冷凍食品の基礎知識について

広報部長が解説。

ウ. メディア展開

(ア)新聞広告(一般紙)

①「読売新聞」(約 664 万部)

10月18日(月)朝刊

タイトル:「うれしい進化が止まらない! 冷凍食品」

内容:「冷凍食品の日」の記事広告として、横澤夏子さんの質問を冷凍食品コンサルタントの西川剛史氏が回答する形式で、冷凍食品のメリットの説明や、冷凍食品アレンジレシピを紹介。(1P カラー)



読売新聞 10月18日朝刊

②「読売 KODOMO 新聞」(タブロイド判約 20 万部)

10月19日(木)

タイトル:「知れば知るほど好きになる! 冷凍食品」

内容:冷凍食品を使ったレシピの紹介や冷凍食品の魅力について Q&A 形式で紹介。(1P カラー)

(イ)新聞広告(専門紙)

①「教育家庭新聞」(22 万部)

9月18日号

タイトル:「給食の課題を冷凍食品で改善」

内容:8月22日、静岡県で行われた学校給食セミナーにて全国学校栄養士協議会長島美保子会長の基調講演と栄養教諭池谷綾子氏の実践発表の内容を掲載。また、会員8社による学校給食への取組と商品紹介と試食会の模様や意見交換会の内容を紹介。(1Pカラー)



教育家庭新聞 9月18日号

②「教育家庭新聞」(22 万部)

3月18日号

タイトル:「給食の課題を冷凍食品で改善」

内容:1月に実施した、川崎市立川崎高等学校附属中学校2年生(14名)と安田学園中学校クッキングクラブ1~3年生(17名)を対象に、冷凍食品を使ったお弁当作り企画として、当協会職員が冷凍食品の基礎知識、栄養バランスの良いお弁当作りについて講義後、生徒による実習を実施。事前に生徒が作ったワークシートや当日の様子、出来上がったお弁当を紹介。(1P カラー)



教育家庭新聞 3月18日号

(ウ)地方メディアミックス

特定エリアでテレビ、ラジオ、新聞等のメディアを複合的に活用し、相乗的な効果の創出を狙い、5年度は、東海・北陸エリアで実施。

①セミナー 第11回 中日健康フェア2023

タイトル : 「あなたのセカンドライフを支える！美味しい冷凍食品活用術」

主催 : 中日新聞社

日時 : 9月23日(土)10:30~12:00

会場 : ウィンクあいち(名古屋市中村区)

内容 : 広報部長が冷凍食品の基礎知識やアレンジ方法を説明。

参加人数 : 会場参加約100人、リモート参加約100人

②ラジオ

番組名 : 日本冷凍食品協会 presents 「べんりとおいしいのその先へ」

放送局 : JFN(ジャパンエフエムネットワーク)6局(下記のFM局)

放送エリア : 東海・北陸エリア(愛知、石川、岐阜、福井、富山、三重)

放送日時 : 10月15日(日)19:00~19:30

内容 : 特番として「冷凍食品の日」を前に、冷凍食品の魅力や活用方法を広報部長が出演し解説。番組内で紹介した冷凍食品アレンジレシピを冷食 ONLINE に掲載。放送された番組は FM 局のプラットフォーム「AuDee」でアーカイブ配信。

※上記の特別番組を前に、東海・北陸エリア6県の下記 FM 放送局のラジオ番組に広報部長が出演し、冷凍食品の基礎知識の解説や上記特番の紹介等を行った。

10月9日(月)18:10~ 約10分 FM GIFU(岐阜)「TWILIGHT MAGIC」

10月10日(火)18:35~ 約10分 FM 石川(石川)「Sunset Express MOVE」

10月11日(水)9:00~ 約10分 FM 福井(福井)「Morning Tune」

10月11日(水)11:40~ 約10分 FM とやま(富山)「水曜日のひなたぼっこ」

10月12日(木)13:30~ 約10分 FM AICHI(愛知)「DAYDREAM MAGIC」

10月12日(木)18:27~ 約20分 レディオキューブ FM 三重(三重)「ゲツモク!!」

その他、AM 局では、以下の放送局のラジオ番組に広報部長が出演した。

10月10日(火)15:10~ 約10分 MRO ラジオ(石川)「おいね☆どいね」

10月11日(水)14:45~ 約10分 KNB ラジオ(富山)「でるラジ」

③新聞・WEB

媒体 : 中日新聞夕刊

エリア : 愛知県、岐阜県、三重県

部数 : 約53万部

掲載 : 10月14日(土)

体裁 : 5段カラー



中日新聞 10月14日夕刊

内 容:記事広告。冷凍食品の魅力を解説。

媒 体:北陸中日新聞朝刊

エ リ ア:富山県、石川県

部 数:約 7.6 万部

掲 載:10 月 14 日(土)

体 裁:5段カラー

内 容:記事広告。前掲のFM6局同時放送をラジオ面で告知。

媒 体:中日新聞食育プロジェクト「いただきます！」WEB サイト

掲 載:10 月 23 日(月)

内 容:記事広告。冷凍食品の魅力を解説。

④WEB サイト・SNS サイト

掲 載:FM AICHI ホームページ

期 間:10 月 1 日~12 月 31 日

内 容:JFN6 局(FM AICHI/FMGIFU/レディオキューブ FM 三重/FM 石川/ FM とやま/FMFUKUI)で放送の特別番組「日本冷凍食品協会 presents べんりとおいしいのその先へ」の紹介。番組で紹介したレシピを冷食 ONLINE に掲載。

掲 載:中日スポーツ LINE 公式アカウント

期 間:10 月 14 日~1 ヶ月間

内 容:東海・北陸 6 局で放送された上記ラジオ特別番組を紹介する内容で配信。(PV:10,216、クリック数:101)

(静岡エリア)

⑤ラジオ

番 組 名:「となりの常連さん」

放 送 局:SBS ラジオ(静岡)

放 送 エリア:静岡県

放 送 日 時:10 月 14 日(土)18:00~18:30

内 容:特番として「冷凍食品の日」を前に広報部長が出演し、冷凍食品の魅力や活用方法を解説。放送した番組は無料音声サービス「Podcast」にて配信。

⑥新聞

媒 体:静岡新聞朝刊(約 55 万部)

エ リ ア:静岡県

部 数:約 55 万部

掲 載:10 月 13 日(金)



静岡新聞 10 月 13 日朝刊

体 裁:全5段 カラー
 内 容:上記「となりの常連さん」へのラジオ出演を予告する内容で、記事
 広告として掲載。

⑦WEB サイト・SNS サイト

掲 載:静岡新聞 SBS「@S(アットエス)」ホームページ
 期 間:10月14日～11月4日
 内 容:10月14日(土)放送のラジオ番組「30 過ぎても presents『となりの常
 連さん』」の内容をWEB記事化。

(エ)ラジオ

①関東エリア(キー局)

番 組 名:「てるのりの冷凍食品でノリノリ！」
 放 送 局:文化放送
 放 送 エリア:関東エリア
 放 送 日 時:10月9日(月)11:00～12:00



内 容:冠番組として、パーソナリティの吉田照美氏、オテンキのり氏と、広報
 部長が冷凍食品を活用した料理を作り、試食を通じて、冷凍食品の
 魅力や最新事情を伝えた。番組収録時の動画を制作(約10分)、協
 会アプリで10月10日から3か月間配信した。

②地方ラジオ局ほか

以下、広報部長が出演し、冷凍食品の基礎知識等を解説。

	放送日	放送局	エリア	番組名	放送時間	出演時間
1	4/10(月)	RKBラジオ	福岡	「Toi toi toi」	9:00～13:00	11:00～11:15
2	6/3(土)	SBCラジオ	長野	武田徹の「つれづれ散歩道」	8:00～11:00	9:24～9:32
3	6/5(月)	FMコミュニティー高松	高松	「Action!!815」(あくしよんはちいちご)	16:00～18:00	内15分
4	6/5(月)	FM香川	香川	「JOY-U CLUB」	16:00～18:55	17:05～17:15
5	7/5(水)	FM栃木	栃木	「B・E・A・T」	16:00～18:55	16:40～16:50
6	7/14(金)	FM群馬	群馬	「ワイワイグルーヴィン」	7:30～11:00	内7分
7	7/21(金)	RKBラジオ	福岡	「仲谷一志・下田文代のよなおし堂」	14:30～17:30	15:40～15:49
8	8/9(水)	RSK山陽	岡山	「天神ワイド 朝」	7:00～12:00	11:25～11:35
9	8/11(金)	FM岡山	岡山	「牛嶋俊明 ドリームファクトリー」	15:00～18:30	16:00～16:30
10	8/21(月)	SBSラジオ	静岡	「鉄崎幹人のWASABI」	9:00～12:55	10:25～10:35
11	8/30(水)	FM愛媛	愛媛	「noonday pop」	12:00～13:00	12:05～12:15
12	9/22(金)	FM AICHI	愛知	「FRIDAY MAGIC」	11:30～14:55	約10分
13	9/29(金)	SBSラジオ	静岡	「DJ RoniのROUNDAABOUT」	13:00～16:00	約10分
14	11/14(火)	RKBラジオ	福岡	「#さえのわっふる」	13:00～17:45	14:42～14:55

15	11/14(火)	FMFUKUOKA	福岡	「Hyper Program Night GOW!!」	16:30～20:25	18:23～18:35
16	11/15(水)	FM大阪	大阪	「intense!」	16:00～18:20	17:25～17:35
17	11/16(木)	ラジオ大阪	大阪	「慶元まさ美のハッピー・プラス」	8:00～11:00	10:20～10:30
18	11/17(金)	Kiss FM	兵庫	「Kiss Music Presenter FRIDAY」	16:00～19:00	16:25～16:35
19	12/3(日)	FMいしがき サンサンラジオ	石垣市、 竹富町	「昼さんぽ♪」	11:00～13:00	番組内約15分
	12/4(月)			「上地等の WalkingTalkingRadio」	13時台	
	12/5(火)			「ちるラジ♪」	13時台	
	12/6(水)			「よ～んな～ユンタク♪」	13時台	
	12/7(木)			「GSを貴方に!」	13時台	
	12/8(金)			「～八重山郷友の声を届けます～「生り島やいま」」	13時台	
20	1/24(水)	ラジオ大阪	大阪	「Hit&Hit!」	14:00～16:55	16:37～16:45
21	3/22(金)	RKBラジオ	福岡	「仲谷一志・下田文代のよなおし堂」	14:30～17:30	16:27～16:30
22	3/23(土)	LOVE FM	福岡	NATURAL DRIVIN'	10:00～13:00	10:20～10:28
23	3/31(日)	ラジオ日本	関東	冷食ONLINEラジオ	25:00～26:00	25:00～26:00

(オ)動画広告制作および配信

①消費者向けPR動画

動画広告の第7弾「冷凍戦隊 手間抜キーン」編として、冷凍食品の特性をコミカルに描いた作品(15秒、30秒)を10月に制作。テレビ番組見逃し配信サービス「TVer」で配信。なお、これまでの制作分を含め、動画は協会スマホアプリ及び協会ホームページでも閲覧可能。

配 信 日:12月28日(木)～6年1月3日(水)

配信先媒体:TVer(日本テレビ、フジテレビ各番組)

配 信 回 数:約400万回

C M 時 間:15秒、30秒



②「認定証」を解説するアニメーション動画

一般消費者向けに当協会の「認定証」についてアニメを使ってわかりやすく伝える、約4分の動画を6年3月に制作。協会スマホアプリ及び協会ホームページで閲覧可能。今後、展示会、各種セミナー等で活用する。

(カ)SNS 等による配信

①YouTube 動画

冷凍食品アンバサダーの三國清三氏へのインタビュー動画を6月にYouTube配信。三國氏がコンビニで冷凍食品を購入するなど意外な一面や、海外での経験、今後の展望などについての内容で、冷食ONLINE、協会ホームページに記事掲載した。

掲 載 日:6月6日(火)

配 信 元:YouTube

②WEB サイト(マイナビニュース)

i. ピックアップ記事広告

9月27日から1か月間、若年層を対象とした総合ニュースメディアであるマイナビニュースのトップページに、ピックアップ記事として過去記事の周知とスマホアプリのダウンロードの誘導を内容として掲載。協会アプリからも掲載ページに移行できるようルーセルに画像を設置。

ii. 記事広告

「マイナビニュース」に記事広告を5年3月25日から掲載(過去4回の漫画形式の続編)。「野菜もたっぷりとれる! 冷食アレンジでお手軽自炊」と題して、冷凍食品を用いたレシピ3品を紹介するとともに、「冷食 ONLINE」に誘導。

期 間: 5年3月25日(月)～ (アーカイブで長期間閲覧可能)

内 容: 一人暮らしの若者が先輩から自炊を勧められ、冷食 ONLINE をみながらアレンジレシピに挑戦するストーリー。

③インフルエンサーを活用した SNS 投稿(Instagram、X)

冷凍食品に関連性のあるインフルエンサーとして、「冷凍子ママ」を10月18日 PR イベントに招き、同氏の Instagram および X において、冷凍食品のメリットや「認定証」の紹介、試食会メニューなどが投稿された。

④TikTok クリエイターを活用した動画投稿

TikTok クリエイターであるアヤノダガネ氏が「冷凍食品の日」の動画として、冷凍食品のメリットや冷食 ONLINE、冷凍食品を使ったスンドゥブうどんの作り方をリズミカルに紹介。投稿された TikTok 動画は、FM AICHI のホームページに掲載。併せて、冷食 ONLINE、協会アプリへのリンクを掲載した。

⑤WEB 対談企画

i. 冷食 ONLINE

「私×冷凍食品」と題し、冷食 ONLINE の特集ページに著名人ゲストとの対談内容を紹介。グラビアアイドルのちとせよしの氏(X フォロワー数: 39.8 万人)、声優の畠中祐氏(X フォロワー数: 13.9 万人)と広報部長との対談内容を3月31日に掲載。両氏の X からインタビュー記事掲載の案内と冷食 ONLINE へのリンクが投稿された。

ii. ラジオ

上記2名のゲストと当協会広報部長が出演し、ゲストの仕事、プライベートで熱くなっていることや、普段の食生活、冷凍食品の豆知識などのトークを行い、「冷食 ONLINE ラジオ」として放送された。また、番組の内容は、Spotify、amazon music、iTunes などのメディアにポッドキャストとして配信。

番 組 名: 冷食 ONLINE ラジオ

放 送 局: ラジオ日本

放送エリア:関東

放送日時:6年3月31日(日) 25:00~26:00

(キ)雑誌広告

①「栄養と料理」(15万部)

健康を意識したメニューでの冷凍食品の利用促進を図るため、タイアップセミナー(前掲)の採録記事を「栄養と料理」4月号(6年3月8日発売)に掲載。

タイトル:「～冷凍食品で自炊はもっとラクになる!～」

内容:2月10日(土)に実施した、栄養と料理タイアップセミナーの様態や、セミナーで紹介したレシピなどを掲載。



②「社会教育」(1万部)

小学4~6年生(28名)を対象に冷凍食品講習会及び調理実習を実施し、採録記事を教育専門誌「社会教育」10月号に記事体広告として掲載。

タイトル:「「あしやハンズ・オン・キッズ」

～冷凍食品は日常の食生活をサポートする大事なもの「食育」体験講座～」

内容:福岡県芦屋町の中央公民館で7月22日(日)に小学生向けの講習会を実施。「冷凍食品について学ぼう!」と題し、基礎知識を分かりやすく説明後、クイズやワークショップ、調理実習の体験を通して理解を深めた。この様子を採録記事として掲載。

(ク)協会スマホアプリ

5年3月に制作した協会スマートフォンアプリ「冷凍食品1018.」について、ダウンロード数の増加をめざすため、8月1日~14日、ダウンロードした方に抽選でペットボトルお茶(600ml)が当たるキャンペーンを実施し、ダウンロード数が969件増加した。10月の冷凍食品月間には、ラジオ特番未公開動画のアプリ内限定公開や、展示会等でのアプリ紹介を行った。また、9月に(株)ニチレイフーズ 社内動画でアプリを紹介した。6年3月31日時点のダウンロード数は、2,371件。

(ケ)小売店への POP 等配布

目的:「冷凍食品の日」等の周知による需要喚起

内容:小売店の売場で当協会制作の「10月18日は冷凍食品の日」、「10月は冷凍食品月間」のPOPについて、食品卸を通じて掲示を促進。

- * 掲示店舗数 ①スーパー約 1,050 店舗
②コンビニ約 21,750 店舗



(コ)ホームページ

トップページのバナー表示や各種情報の適宜更新した。4月～3月で「TOPICS 消費者のみなさまへ」では24件、「TOPICS 会員・業界関係者向け」ページでは、計72件の情報を掲載。

(サ)消費者向けサイト「冷食 ONLINE」

冷凍食品のススメを中心に、コンテンツの拡充を推進。今年度は、冷凍野菜の活用法やアレンジレシピページに注力したほか、新たにレシピ動画を毎月2～3本掲載。

(シ)Facebook

「冷食 ONLINE」のニュース更新を伝える告知媒体「冷凍食品のススメ」として活用した。

(2)啓発活動

ア. 冷凍食品ゼミナール・講習会

(ア)学生を対象にした冷凍食品ゼミナール

栄養士や調理師の養成講座を設置している大学、短大、専門学校及び高校に案内を行い、要請のあった学校を対象に講演、DVD上映、調理デモンストレーション・実習、試食等を内容としたゼミナールを開催。5年度は、実施23件(前年度22回)、参加者1,310人(同1,140人)であった。

(イ)消費者を対象にした講習会

全国の消費生活センター、保健所、消費者グループ等が主催する消費者対象の講習会を、講演、DVD上映、調理実習を内容として開催。5年度は、実施9件(同12回)、参加者489人(同413人)であった。

(ウ)業務用ユーザーを対象にした講習会

従来から、各地の学校給食会、保健所等の要請により、集団給食に携わる栄養士、調理師等を対象に開催しているが、5年度は、実施4件(同1件)、参加者145人(同10人)であった。

(エ)冷凍食品コンサルタント

①調理コンサルタント委嘱

全国の料理研究家等を冷凍食品調理コンサルタント(11名)として委嘱。協会職員と協

力して、各地で上記のゼミナール・調理講習会を開催し、主に実習を担当しているが、5年度は20件(同12件)の講習会等に参加。

②冷凍食品コンサルタント委嘱

西川剛史氏を冷凍食品コンサルタントとして委嘱。PR イベントへの参加など協会事業に参画。

イ. 消費者団体との意見交換会

平成21年以降、消費者団体と定期的に意見交換会を実施しており、6年2月に第15回目を開催した。協会側から冷凍食品の需給動向、協会事業の概要、食品表示などを説明。冷凍食品をめぐる様々な課題について意見交換を行うとともに、終了後、会員社製品の試食等を実施。

日時:6年2月14日(水)15:00~17:00

場所:主婦会館プラザエフ(東京都千代田区)

出席者:7団体12名

<参加消費者団体>

主婦連合会、(一社)全国消費者団体連絡会、
(公社)全国消費生活相談員協会、東京消費者団体連絡センター、(一社)消費者市民社会をつくる会、(一財)日本消費者協会、(一社)フードコミュニケーションコンパス



<当協会>

専務理事、常務理事、運営委員会委員長、広報部会長、環境部会長、CS研究会座長、品質・技術部長、広報部長

ウ. 工場見学の推進

消費者等が冷凍食品工場の見学を通して、生産現場での品質・衛生・安全管理や製造工程の理解を深めることで冷凍食品ファンを拡大するため、引き続き、その受け入れが可能である会員企業の冷凍食品工場を当協会ホームページで紹介したが、多くの工場では見学を制限しており、5年度は計89回、791名の工場見学を実施(昨年度は計83回、510名)。

エ. 普及広報資材

講習会、ゼミナール、イベント、各社のお客さま相談室等で使用する各種パンフレット、冊子類、DVDについて、その内容を適宜見直し活用した。

	(配布数)
・リーフレット「冷凍食品だからOK！」	18,900部
・ " 「冷凍食品認定制度(学校給食に携わる皆さまへ)」	4,600部
・ " 「認定証のマークは信頼の証です」(5年10月制作)	1,700部
・冊子「冷凍食品Q&A」	17,800部

・	〃	「冷凍食品ひとくふうレシピ」	20,100 部
・	〃	「冷凍食品取扱いマニュアル」	4,300 部
・		DVD「フレッシュ、便利、おいしさ、多彩！冷凍食品のある暮らし」(消費者向け)	9 枚
・		DVD「食」の現場で大活躍 学ぼう！使おう！冷凍食品」(業務用関係者向け)	506 枚
		*5年3月制作	
・		DVD「学校給食充実のために冷凍食品ができること」(学校給食関係者向け)	35 枚

(3)その他

ア. 冷凍食品の利用状況実態調査

消費者の冷凍食品利用状況の経年変化を把握するとともに、広報事業の基礎データとして利用。4年度の調査結果を5年4月に公表。また、PRワイヤーを利用し、各メディアに向けて発信。

5年度は、値上げに対する意識や食品・食材に対するコスパ・タイパの意識等に関する設問を加えた調査を6年2月に実施し、4月11日に公表。

イ. ブロック協議会との連携

各地で冷凍食品の普及・消費拡大事業を展開している各ブロック協議会(首都圏、北陸)に対し、普及広報資材の提供、助成などの支援を行った。

ウ. 流通事業者との連携

販促活動に活用してもらうため、業界統一キャッチコピー及びロゴを流通会員事業者に提供したほか、パンフレット、冊子などを要望に応じ提供。

2. 品質・技術事業

(1)「冷凍食品認定制度」(以下、認定制度)の運用

令和7年度に予定している認定制度改定の作業を進めた。5年度は、コロナ禍以前の通常体制で検査を実施できるようになり、海外工場についても現地で更新調査を実施した。品質・技術講習会については、品質管理や製造技術の紹介などをテーマにオンライン方式で開催した。引き続き(一財)日本食品検査(以下、JFIC)に工場調査、指導業務を委託した。

ア. 更新及び新規調査・審査

5年度は、更新調査対象48工場の調査のほか、2工場の新規調査を行った。海外工場のうち、4年度にオンラインで更新調査を行った中国及び台湾の工場については、現地調査を行った。

これらの工場の調査報告を基に、冷凍食品製造工場認定委員会を10回開催して認定審査を実施。更新審査の結果、全体的にレベルアップが図られたほか、新規認定の2工場に

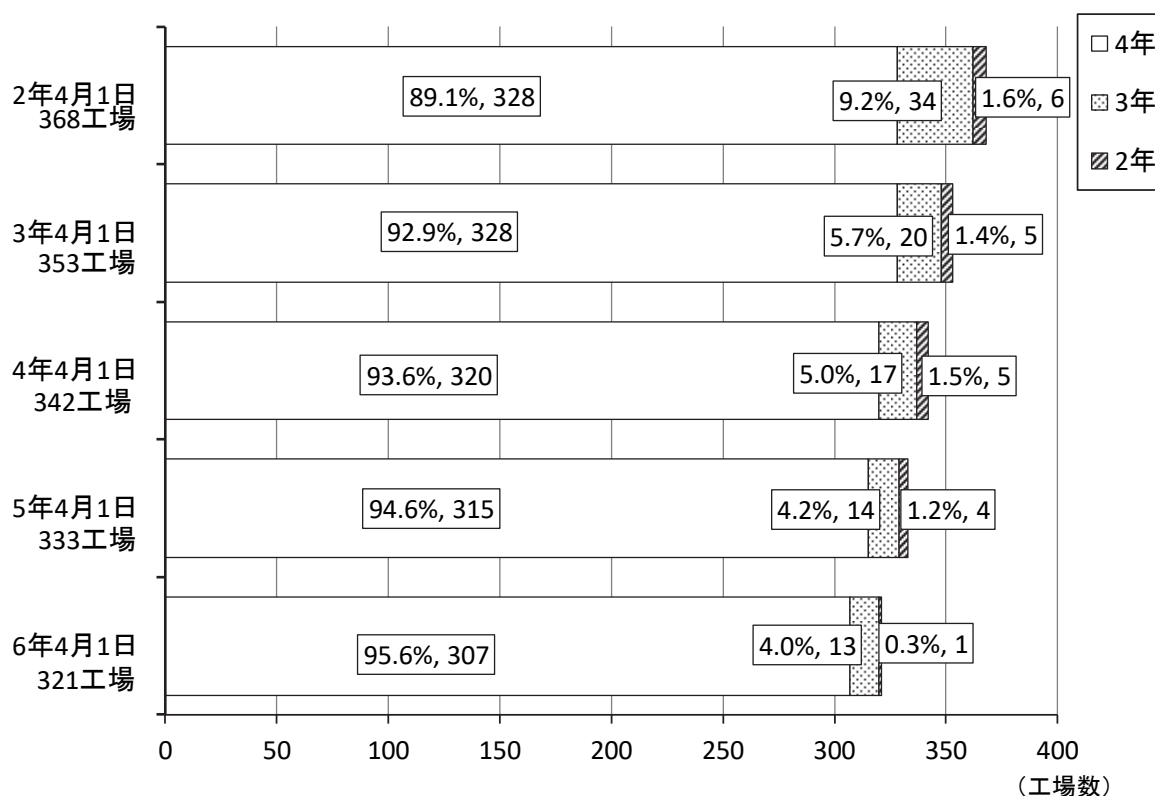
については、いずれも3年工場として認定された。審査は、調査時の評価点だけでなく、製品の温度管理、微生物検査体制等を確認し、必要に応じ、関係資料の追加提出等により当該工場の状況を詳細に把握して審査を行った。

6年4月1日時点の認定工場は、321工場、うち4年工場307、3年工場13、2年工場1。

<5年度 認定工場数の内訳>

内 容	認定有効期間別工場数			計
	4年	3年	2年	
5年4月1日時点の工場数	315	14	4	333
取下げた工場数	10	3	1	14
新規認定工場数	0	2	0	2
6年4月1日現在の工場数	307	13	1	321
構 成 比	95.6%	4.0%	0.3%	100%

<有効期間別認定工場数の推移>



イ. 定期検査、工場指導、特別指導、重点指導

- ①定期検査及び製品検査は、年2回を原則とし、定期検査のうち、優良工場については、希望により1回も可とした。海外工場については、現地訪問し実施した。
- ②工場指導は、2年及び3年工場を対象として、認定要領に定める規定の回数を実施した。

③オプション支援は、細菌検査室支援、官能検査支援、拭取り検査支援などを、工場希望により実施した。

＜5年度定期検査等の実施件数＞

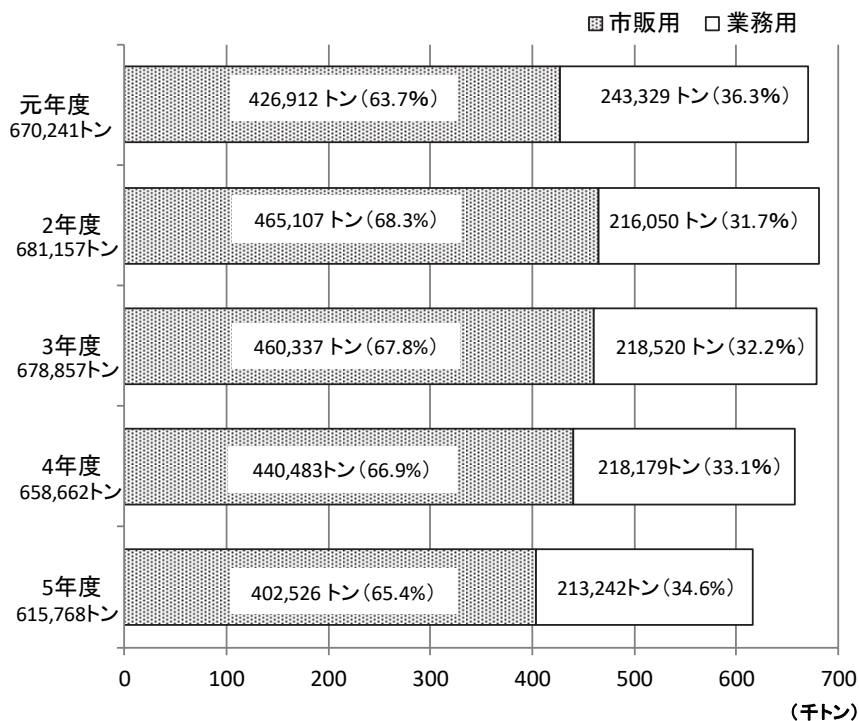
検査別	定期検査	製品検査	工場指導	オプション支援
実施件数	590	642	17	104

④有効期間が2年及び3年工場に対しては、工場が優先して改善すべき課題を明確にし、これに基づいて、工場が作成した改善計画について、その改善状況を確認するなど、重点的な指導を実施した結果、2年工場が2工場、3年工場が3工場、計5工場がランクアップした。また、定期検査・工場指導の際、オンラインで工場（経営者、工場長、品質管理責任者など）と協会、JFICの3者で意見交換を行い、工場の現状や自身で改善できない課題について積極的に意見交換を実施した。

ウ. 格付数量

5年度（4～3月）の格付数量は、前年に比べ大幅に減少し、616千トン（同年比93.5%）であった。そのうち、市販品は、403千トン（同91.4%）、業務用は213千トン（同97.7%）と市販品の減少が顕著であった。

＜認定工場格付数量の推移＞



エ. 認定工場の年間格付数量の確認と対応

年間格付数量の基準である60トンに達しなかったのは、45工場と前年度より増加した。これらの工場のうち、10工場が認定を取り下げた。

オ. 講習会

以下、いずれもオンラインによる講習会

①防虫防鼠講習会(基礎編)

・5月18日(約110名)

講師:イカリ消毒(株) 増山 謙一氏

②食品表示の法律と最新動向

・9月6日(約300名)

講師:FOOCOM 代表 森田 満樹氏

③HACCP 衛生管理計画作成講習会(4年7月21日開催の同講習会の動画を配信)

講師:朝川品質・技術部長

④防虫防鼠講習会(応用編-グループ演習あり。3回開催)

・11月14日、11月15日、12月12日(計42名)

講師:イカリ消毒(株) 鈴木 伸隆氏他

⑤最新技術の紹介(X線探知機、DX&IoT技術など)

・11月22日(約73名)

講師:アンリツ(株) 佐々木 聖志氏他

⑥洗浄講習会

・1月18日 1回目「サニテーションの基本」(約161名)

・2月15日 2回目「洗浄方法と洗浄剤」(約109名)

・3月13日 3回目「洗浄の効率改善・最適化」(約61名)

講師:(株)エスピーピー 代表取締役 新井 規夫氏

⑦最新技術の紹介「最新工場の取り組み事例紹介」

・3月19日(約205名)

講師:株式会社ニチレイフーズ 塚本 真也氏

カ. 会員非認定工場に対する支援

①「HACCP 衛生管理計画作成」支援

5年度は、支援なし。4年度までに延べ6工場の支援が完了。

②「品質保証体制の構築」支援

5年度は、支援なし。4年度までに延べ6工場の支援が完了。

(2) 認定工場への情報提供

5年度は、3回のメルマガを発信。また、行政情報やセミナー案内などの情報は、別途認定工場等にメール発信。

・第1回(4月31日)

- ① 講習会のご案内(防虫防鼠講習会、衛生管理計画作成講習会)
- ② WEB「冷凍冷蔵機器の脱フロン・脱炭素化推進事業」説明会のご案内(環境省)
- ③ 海外輸出規制プラットフォーム 情報公開(一般財団法人食品産業センター)

・第2回(7月30日)

- ① スマートフォンアプリ(冷凍食品 1018.) ダウンロードキャンペーンのお知らせ
- ② 講習会のご案内(食品表示講習会、防虫防鼠講習会(応用編))
- ③ アスパルテームに関するQ&A(内閣府 食品安全委員会)
- ④ 認定証マークのサイズに関する注意喚起

・第3回(12月21日)

- ① オプション支援の案内
- ② 講習会のご案内(洗浄講習会、最新技術の紹介(オンデマンド配信))
- ③ 第2回 令和5年度食品表示懇談会議事内容(消費者庁)
- ④ アレルギー表示:まつたけ削除・マカダミア追加方針を決定(消費者庁)

(3) 冷凍食品認定制度検討会

今後の認定制度(以下、制度)の在り方を長期的な視点から検討するため、品質・技術部会や業務委託先検査機関の元役員、学識経験者等で構成する冷凍食品認定制度検討会を4年10月に設置した。その後、会合を4回開催し、5年4月14日の第4回検討会でとりまとめを行った。とりまとめは、制度の現状、その評価及び課題を明らかにした。以下のような制度の方向性が示された。

- ① この価値ある制度を今後も維持するため、冷凍食品を取り巻く社会環境の変化や課題に対応し、随時見直すことや付加価値も検討すること。
- ② 各種指導や支援が用意され、これを活用することでレベルアップが可能な、この制度は、他の認証制度に比べ優位性があることから、新たな手法も取り入れながら様々な分野にアピールし、認知度を向上させること。

(4) 非会員への対応

5年度の品質・技術講習会は会員限定のオンライン開催としたため、非会員企業に対する講習会を通じた協会加入の誘導活動は実施できなかった。

(5) 品質・安全問題への対応

ア. 調理冷凍食品品質表示基準

旧 JAS 法から移行された「調理冷凍食品品質表示基準」については、消費者庁に対して廃止を要請してきたが、5 年 10 月以降、消費者庁は「食品表示懇談会」(以下、懇談会) で、食品表示の見直しが進められ、「個別品目ごとの表示ルール」は 6 年度から分科会で見直しが予定されている。当協会として、同ルールの対象となる調理冷凍食品品質表示基準については、廃止を要望することを決定した。

イ. HACCP 支援法に基づく高度化基盤整備計画認定

当協会は、食品の製造過程の管理の高度化に関する臨時措置法における、冷凍食品の HACCP 導入のための高度化計画及びその前段階である衛生・品質管理の基盤整備計画の認定機関であったが、5 年 6 月末をもって同法は失効となった。

ウ. 流通事業者の温度管理徹底

冷凍食品にとって夏場の温度管理は重要な課題であるため、6～9 月を温度管理強化月間と定めている。引き続き、小売事業者等に対しその啓発活動を行い、5 年度は、流通関係 7 団体等を経由し、チラシ 2,000 部、リーフレット 3,000 部を配布した。

3. 環境対策事業

(1) 自然冷媒への転換推進

ア. 令和 5 年度からの新規補助事業

環境省の「コールドチェーンを支える冷蔵冷凍機器の脱フロン・脱炭素化推進事業」(5 年度～9 年度)が 5 年度から始まり、5 年度の事業予算は 70 億円となった。多くの協会会員がこの事業を活用し、自然冷媒機器の導入を行った。

イ. 冷凍食品工場における冷媒調査の実施

環境省の補助事業に関して、会員の冷媒の使用状況調査を毎年実施しているが、今年度も 6 年 1 月に実施した。

(2) 容器包装 3R の推進

ア. 第四次自主行動計画の策定

「プラスチック資源循環促進法」が 4 年 4 月に施行されたことを受け、6 年 3 月に「冷凍食品業界における容器包装 3R 推進のための第四次自主行動計画」を策定した。

内容は、基準年を2022年度、目標年を2030年度とし、プラスチック容器包装を毎年1%程度削減(原単位)する。

その実現のため、包装形態の簡素化、トレーの削減、プラスチック製から紙製トレーへの切替え、プラスチック製包装材から紙製包装材への切替え、再生プラ・バイオマスプラの利用等を促進する。

イ. 第三次自主行動計画フォローアップ調査

「冷凍食品業界における容器包装3R推進のための第三次自主行動計画」の4年度(2022年度)のフォローアップ調査を実施し、11月に公表した。

4年度の家庭用冷凍食品容器包装のプラスチック使用量原単位は、前年対比0.3ポイント減少し、基準年である2004年度比では37.7%減少と、20年度の目標である22%減少を15.7ポイント上回った。

ウ. プラスチック資源循環法への対応

「プラスチック資源循環促進法」の施行に伴い、冷凍食品業界としてプラスチック容器包装の環境配慮に関する自主設計指針と環境配慮設計ガイドライン(標準基準)を5年3月に策定した。さらに、環境配慮認定基準の検討を進めた。

(3)環境自主行動計画の推進

令和4年11月に策定した「冷凍食品業界における第二次環境自主行動計画(令和4年改正版)」においては、長期的にエネルギー消費原単位の削減、自然冷媒への転換などの目標を設定しているが、同計画に基づくフォローアップ調査を実施し、11月に公表した。

4年の冷凍食品産業のエネルギー消費原単位は前年0.5%増と、同計画の前年比1%程度削減するよう努める目標を達成できなかった。その主な要因としては、猛暑により、製造時、保管時に使用する電力が大幅に増加したこと、省力化設備の導入などによりエネルギー使用が増加する企業があったことなどがあげられる。

4. 物流の適正化等への対応

6月に、「我が国の物流の革新に関する関係閣僚会議」において、「物流革新に向けた政策パッケージ」がとりまとめられたことを受け、行政当局との調整を経て、12月に「物流の適正化・生産性向上に向けた冷凍食品業界の自主行動計画」を策定し、会員に周知した。

5. 統計調査事業

(1) 統計

ア. 冷凍食品の国内生産調査及び生産・消費に関する統計

令和4年(1月～12月)冷凍食品の国内生産調査の結果と、財務省貿易統計から抽出した冷凍野菜輸入及びイの調理冷凍食品輸入調査の結果をとりまとめた統計速報を4月に公表した。

5月には、「令和4年(1～12月)日本の冷凍食品生産・消費に関する統計」を作成し、会員、関係官庁、団体、教育機関等に配布した。

また6年年初から5年(1～12月)冷凍食品の国内生産調査を実施し、前年同様の項目について6年4月19日に統計速報を公表した。

イ. 調理冷凍食品輸入調査

調理冷凍食品の輸入量は、財務省貿易統計から抽出することが困難であるため、会員のうち調理冷凍食品を輸入している企業を対象に毎年調査を実施している。

5年度は、回答のあった37社による4年(1～12月)調理冷凍食品輸入調査の結果について、アの統計と共に公表した。

また、5年(1～12月)については、アと同様に調査を実施し、6年4月19日に公表した。

ウ. 冷凍食品に関する諸統計

アの統計に、関係官庁等で発表する「冷凍」に関連する各種統計と諸外国の冷凍食品統計を加えて、10月に「令和4年冷凍食品に関連する諸統計」を作成し、関係者に配布した。

(2) 調査

「外食における冷凍食品利用とテイクアウト調査」

調査対象は、冷凍食品(冷凍品含む)を販売する全国の外食チェーン店、ホテルとし、新型コロナウイルス感染拡大以降の外食産業における冷凍食品の利用状況と冷凍食品のテイクアウト事業の状況を調査した。

6. 海外交流

(1) 中国コールドサプライチェーン協会の来訪

3月6日(水)、中国物流と購買連合会コールドチェーン物流専門委員会メンバー14名が当協会を訪問し、意見交換を行った。当協会から、日本の冷凍食品産業、低温物流、協会事業などを説明。中国側からは、中国の食品物流事情等の説明があり、意見交換が行われた。



(2) 中国食品科学技術学会の来訪

3月7日(木)、中国食品科学技術学会の専門委員会メンバー17名が当協会を訪問し、意見交換を行った。同学会は、中国の大手冷凍食品企業が加入しており、当協会からの日本の冷凍食品事情等の説明に対し、日本の多種多様な冷凍食品、自然解凍商品、認定制度などに強い関心を示した。なお、同学会は2009年以来の来訪である。



7. 会員関係事業

(1) 情報の提供

ア. 会報誌の発行

冷凍食品に限らず食品及びその周辺も含めた幅広い情報を提供するため、その内容を見直しつつ、月刊誌「冷凍食品情報」を会員、官庁、関係団体、メディア等に毎月1,400部配布した。

イ. WEB活用

ホームページ、Eメール等により、会員に対して、その緊急性に応じて適宜、情報提供を行った。その中で、ホームページでの関係省庁からの周知依頼が57件、アンケート・調査依頼が51件あった。

(2) 地区会員協議会

3カ所で開催し、会場及びオンラインによるハイブリッド形式での参加とし、従来より多い参加者数となった。また、終了後に懇親会を実施した。

<議 事>

- ① 冷凍食品産業を取り巻く諸問題と協会の事業について
- ② 冷凍食品認定制度と今年度の状況について
- ③ オプション支援について

<開催状況>

① 北海道地区会員協議会

10月13日(金)、会場:ポールスター札幌(札幌)
会場参加25名 オンライン参加4名

② 東海・北陸地区会員協議会

6年2月2日(金)、会場:サイプレスホテル名古屋(名古屋)
会場参加38名 オンライン参加4名

③関東・甲越地区会員協議会

6年2月16日(金)、会場: THE PLACE OF TOKYO(東京)

会場参加 53名 オンライン参加 15名

(3)流通会員社懇談会

6年4月21日(金)、流通会員7社8名と懇談会を実施し、冷凍食品業界をめぐる諸問題、当協会の諸事業のあり方等について意見交換を行うとともに、小売店へのPOP等の配布について協力を依頼した。

(4)会員の加入促進

会員の加入について、直接的な働きかけを行うなど、その促進を図り、5年度は10社の新規加入があった。

8. その他(新たな外国人受け入れ制度への対応)

引き続き、「外国人食品産業技能評価機構」の理事として、その運営に寄与するとともに、会員への飲食料品製造業における特定技能制度の企業推薦窓口として情報提供を実施した。

9. 総会・理事会

(1)令和5年度通常総会

5月17日(水) 東京會館(東京都千代田区丸の内)

議題(議案)

第1号議案 令和4年度事業報告及び収支決算、監査報告

第2号議案 役員選任

(報告事項)

1. 令和5年度事業計画
2. 令和5年度収支予算
3. 令和4年度会員の異動状況

(2)理事会

ア. 5月理事会

5月17日(水) 東京會館(東京都千代田区丸の内)

議題(議案)

第1号議案 令和5年度総会に付議すべき議題の件

第2号議案 退任役員への退職慰労金支給の件

(報告事項)

1. 5年11月理事会について
2. その他

イ. 11月理事会

11月10日(金) 川奈ホテル(静岡県伊東市)

議題(議案)

第1号議案 規程の改正(役職員の給与規程の改正)について

第2号議案 新規加入会員の承認に関する件

(報告事項)

1. 事業中間報告
 - (1)広報事業、(2)品質・技術事業、(3)総務企画関係事業
2. 物流問題対応
 - ・物流の適正化・生産性向上に向けた冷凍食品業界の自主行動計画の策定について
3. 外国人労働者雇用制度の見直しについて
4. その他

ウ. 3月理事会

3月26日 ロイヤルパークホテル(東京都中央区日本橋)

議題(議案)

第1号議案 令和6年度事業計画(案)及び収支予算(案)の承認に関する件

第2号議案 新規加入会員の承認に関する件

第3号議案 令和6年度通常総会の招集に関する件

(報告事項)

1. 令和5年度事業報告(案)及び収支決算見込み
2. 認定制度の改正に関する件
3. 「物流の適正化・生産性向上に向けた冷凍食品業界の自主行動計画」
4. 「冷凍食品業界における容器包装3R推進のための第四次自主行動計画」
5. 部会の廃止、名称変更
6. その他

10. 委員会・部会・研究会

(1) 運営委員会

委員長 松尾 哲哉(ニチレイフーズ)

副委員長 梅田 浩二(ニッスイ)

第1回 10月27日(金)

議題 ○5年度事業中間報告

○6年度の広報事業基本方針について

○報告事項(令和5年度品質・技術事業、総務企画関係事業)

第2回 3月11日(月)

議題 ○令和5年度広報事業報告

○令和6年度広報事業計画(案)

○報告事項(令和5年品質・技術事業、総務企画関係事業)

(2) 品質・技術部会

部会長 松尾 宏樹(味の素冷食)

副部会長 上野 直之(ニチレイフーズ)

第1回 5月12日(金)開催。

議題 ○部会設置要領の改定、4年度事業報告、EC配送時の温度検証、品質表示基準への対応を検討

第2回 7月26日(水)開催。

議題 ○認定制度の改定、EC配送時の温度検証、食品表示基準への対応等

第3回 11月1日(水)開催。

○認定制度改定、EC配送時の温度検証、食品表示基準への対応等

第4回 1月11日(木)開催。

議題 ○認定制度改定、EC配送時の温度検証、食品表示基準への対応等

第5回 3月14日(木)開催。

議題 ○認定制度改定、食品表示基準(個別品表)廃止等

(3) 広報部会

部会長 大竹 泰(ニチレイフーズ)

第1回 3月15日(金)

議題 ○5年度広報事業報告、6年度の広報事業計画案

(4) PR 部会(開催なし)

・5年度末をもって廃止とした。

(5) 環境部会

部会長 小梶 聡(マルハニチロ)

第1回 7月4日(火)に環境配慮ワーキンググループと合同開催

議題 ○プラ環境配慮設計ガイドライン認定基準の部会承認、新部会長の選出

第2回 1月24日(水)

議題 ○部会名称「サステナビリティ推進部会」への変更について(6年4月1日)

○「冷凍食品業界における容器包装 3R 推進のための第四次自主行動計画」(案)
について部会承認

(6) CS(顧客満足)研究会

座長 伊藤 聡(味の素)

副座長 赤尾 正和(マルハニチロ)

第1回 6月15日(木)

議題 ○パッケージ表示に関する好事例の各社取組状況について

第2回 12月6日(水)

議題 ○お客様アンケートの現状と有効活用の各社取組状況について

第3回 3月19日(火)

議題 ○AIの発展や環境変化での客相の「あるべき姿」を各社討議

(7) DFF(冷凍食品物流)研究会

座長 今泉 貴博(明治)

副座長 谷口 太郎(テーブルマーク)、二家 志郎(ニチレイフーズ)

第1回 5月23日(火)

議題 ○2024年問題への対応について討議

第2回 6月30日(金)

議題 ○「加工食品分野の物流の適正化・生産性向上に向けた取組連絡会」に関する農水省からの説明

7月25日(火)、9月27日(水)

○農林水産省「加工食品分野の物流の適正化・生産性向上に向けた取組連絡会」への参加

・12月25日「物流の適正化・生産性向上に向けた冷凍食品業界の自主行動計画」の公表

(8) RFF(市販冷凍食品)研究会

座長 林 聡史(ニッスイ)

第1回 8月1日(火)

議題 ○食品産業センターによる取引慣行の実態調査報告

第2回 10月16日(月)

議題 ○今後の検討課題をPEST分析による抽出共有